

平成31年度 学校自己評価システムシート (県立和光高等学校)

目指す学校像 **創造する力を伸ばし、協働する元気な集団を育てる学校**

重点目標	1 意欲を育て、ひとりひとりの力をしっかりと伸ばす学習指導
	2 ルールと時間を守り、思いやる心と社会性を養う生活指導
	3 自分自身を正しく理解させ、自尊・自信を築く進路指導
	4 協力をと汗を流すことを募り、活気ある学校行事と部活動の充実及び地域への貢献

※ 重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目(年度達成目標を意味する。)は複数設定可。
 ※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度	A ほぼ達成(8割以上)
	B 概ね達成(6割以上)
	C 変化の兆し(4割以上)
	D 不十分(4割未満)

※ 学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者	6名
	生徒	5名
	事務局(教職員)	11名

年度目標		年度評価(2月1日現在)					
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	
1	<p>【現状】</p> <ul style="list-style-type: none"> 生活習慣や基礎学力に課題を持つ生徒が多い。 入学段階では学習習慣が身に付いていなかったり、勉強への興味・関心が低い生徒が含まれる。 一方で、高校での生活が進むにつれて学習への興味を持ち、意欲的に取り組む生徒が増えている。 転退学者は連続して減少傾向にある。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> 高校入学以前の段階で何らかのつまずきを抱える生徒が多く、学習の準備や学ぶ姿勢、周囲の環境の整備など、基本的な学習への取り組み方についての指導が必要な生徒が含まれる。 個々の生徒の状況や学力の差が大きく、授業への興味を高める工夫や、授業の進度・難度の設定に配慮が必要である。時代の変化、生徒の実態に即した指導方法を構築する必要がある。 1年～2年の進級率は向上しており、平成29、30年度ともに入学者の90%以上が進級している。一方、3年の当初在籍数は入学時の80%程度が続いており、2年～3年の間での転退学者の減少のための指導体制が必要である。 	授業研究を推進する。	<p>①教員相互の授業見学を推進し、意見交換を行い、授業スキルの向上に向けた校内の共助を確立する。</p> <p>②教員対象の研修会、先進校の視察等によって、指導についての共通理解を深め、授業力向上を図る。</p> <p>③授業評価アンケート、授業公開でのアンケートを実施し、教員個々の授業力の伸長を図る。</p>	<p>①職員間相互の授業見学数</p> <p>②職員研修、研究協議への参加数</p> <p>③授業評価等アンケートの結果</p>	<p>【授業研究により教員の授業力を向上】</p> <p>①2回の参観月間を設定。研究授業を除く参観票提出数36。</p> <p>②研究授業11回研究協議回。要請訪問授業研究会実施。先進校視察：松戸国際4名、川口市立5名、武南4名派遣。職員研修：基礎力診断テスト分析会、ベネッセ・リクルートなどからベネッセや基礎学力定着の取組の情報収集を行った。</p> <p>③授業評価アンケートでは、各項目で全体平均約88%以上の生徒から肯定的な回答を得ている。</p>	A	<p>授業に向かう個々の生徒の姿勢は向上している。自身の進路との関連や学習の意義への理解を深めることで、さらに生徒の意欲の向上を図り基礎力の定着を図りたい。新教育課程の実施に向け、「総合的な探究の時間」や各教科での探究的活動を見据えて、教員の授業力の向上のため、授業研究や研修等の充実が必要である。</p>
		生徒の実態把握に基づいた学習指導を推進する。	<p>①1学年で2学級増、2学年で1学級増の2年間の少人数学級編成を実施し、よりきめ細かな指導を継続する。</p> <p>②二者面談・三者面談等を通じ生徒理解に努め、学習と生活の両面から一人一人に応じた指導を行う。</p> <p>授業巡回の実施やチャイム着席などを徹底し、授業に向かう姿勢を身に付けさせるため、生活指導と一体化した学習指導の在り方を定着する。</p> <p>学習サポーター、多文化共生推進員、特別支援巡回指導員等を活用する。</p> <p>③学校設定科目「ベネッセ」を通して基礎学力と自発的な学習方法を身に付けさせる。</p> <p>興味をもとに基礎からの学習をすすめることで「わかる楽しさ」を教える。</p> <p>補習や課題、自習室の設定等、学習環境を整え、学習意欲の向上と欠点保有者の減少を図る。</p> <p>④高校入学以後の学習状況の変化を把握するための研修会、授業評価、学校評価等のアンケートを実施し、実態を把握・分析する。</p>	<p>①③④学校評価等アンケートの結果</p> <p>②③優良者数と欠点者数、進級者数の変化</p> <p>③④実力診断テストなどによる学力の把握と分析による変化</p>	<p>【学ぶ意欲を高める実態に応じた授業実践】</p> <p>①学校評価・授業評価ともに生徒・保護者から概ね肯定的な回答を得ている。特に少人数学級編成の評価が高い。(生徒84.3%、保護者97.8%)</p> <p>②各学期に面談を実施。授業への生徒の取組は授業評価アンケートの結果にも表れているように向上している。ただし「学習意欲」については、授業評価・学校評価の両アンケート間で結果に差があり、検証が必要である。</p> <p>③学年、教科の実態に応じて補習を実施した。2学期末には全生徒の34.3%が成績優良者。しかし欠点者数は減少したものの数はまだ20%と多い。また、欠席数は増えた。</p> <p>④ベネッセは事前事後テストで学力を把握した。事後テストでは取組状況に応じて学力の伸長が見られる。基礎力診断テストの結果を用い、分析会を実施して課題を共有した。</p>	B	<p>学校評価・授業評価アンケートの結果から、生徒の実態に応じた学習指導が行えていると捉えている。</p> <p>本年度、年度途中の欠点保有者は大きく減少したが、長期欠席の生徒が増え、欠席数は増加した。生活指導と一体化した学習指導の実践と、学ぶことの意義や目的の意識づけを継続する。</p> <p>実力診断テストは問題の形式が変わり、前年度までの比較が困難である。引き続き、新しい学習観のもと基礎的な学力の定着が課題であり、ベネッセの有効的な活用方法を検討する。</p>
2	<p>【現状】</p> <ul style="list-style-type: none"> 基本的な生活習慣の定着に課題を抱える生徒が一定数に在籍している。 他者と互恵的な関係を築くソーシャルスキルが不十分な生徒が一定数に在籍している。 場に応じた整容、態度をとることに課題を抱える生徒が一定数に在籍している。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> 女子の整容指導を強化する必要がある。 自己を律する姿勢・態度の醸成が必要である。 家庭との連携を強化する必要がある。 	基本的な生活習慣を定着させる。	<p>①5分前行動を心がけ、チャイム着席を徹底させる。遅刻指導を実施し、生徒の時間管理意識を向上させる。</p> <p>②授業開始時に整容指導を徹底し、授業に真剣に取り組む姿勢を確立する。学年を横断した統一基準による指導を定着させる。保護者との連携により協力体制のもとで生徒指導を実施する。</p>	<p>①全体遅刻数・欠席数の変化</p> <p>②整容違反者の数の減少</p>	<p>【徹底した遅刻指導と整容指導を継続】</p> <p>①2学期末時点で、遅刻数は延べ2163回だった。昨年度に比し減少したが、特定の生徒による繰り返しが多い。欠席数は延べ4479回となり、長期欠席者が増え、それを含めた欠席数は増加した。</p> <p>②整容違反者数延べ1061名である。全体的には少しずつ落ちついてきている。整容チェックの制度を活用して、整容指導を行う機会自体は増えている。</p>	B	<p>遅刻数は依然として高い数字となっており、生活習慣を整えることが課題である。また、整容指導や言葉遣いなど、公共の場における振る舞いを身に付けることも課題である。遅刻指導・整容指導等を継続する。</p>
		ソーシャルスキルを向上させる。	<p>①生徒会や委員会活動、また自立支援事業や就業体験事業など外部機関との連携を通じてソーシャルスキルの向上を図る。</p> <p>②生徒主導の学校行事を充実するために指導の工夫改善を実施する。</p>	<p>①②年間委員会開催回数の増加</p> <p>①自立支援事業・就業体験の満足度結果</p> <p>②行事事後アンケートの満足度・達成感の上昇</p>	<p>【ソーシャルスキルの向上への取組と充実した学校行事運営】</p> <p>①就業体験が充実していたという回答は77.3%。2学期末までの問題行動は前年度比約30%程度減少した。</p> <p>②行事についてのアンケートでは、肯定的な回答が生徒76.2%、保護者86.0%だった。学食への感謝を伝える企画など、生徒会が中心となり積極的な活動を行った。文化祭は企画の段階から生徒会が中心となり生徒自身が学校行事を運営する体制が整ってきた。充実した文化祭・体育祭が実施されている。委員会開催数は昨年とはほぼ変化はないが各委員会が工夫ある活動を実施した。</p>	B	<p>学校行事の生徒の参加状況は非常に良い。一層、学校生活の様々な面において、生徒が積極的に関わることのできる体制を整えていく。また、生徒のソーシャルスキル、コミュニケーション力を一層高めることが課題である。外部機関と連携しながら引き続き取り組む。</p>
3	<p>【現状】</p> <ul style="list-style-type: none"> 体系的な進路指導を計画・実施しているが、生徒の進路希望が多岐にわたり、実態も多様である。 生徒の多くは進路に向けての活動には意欲的であるが、進路意識を持つまでに時間のかかる生徒がいる。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> 早い段階から具体的な進路目標を見据えさせるための段階的なキャリア教育の充実が必要である。 学力面での不安が消極的な選択につながり、進路に向けての活動が遅れる生徒がいる。 	生徒の学校生活への取り組み状況を改善し目的意識・進路意識を高める。	<p>①「高校生のための学びの基礎診断」を実施し、分析会を通じ、実態の把握や今後の学習活動に活用する。</p> <p>②様々な角度から適切なアドバイスと励ましの言葉を与え、進路と前向きに向き合えるための確かな自信を育む。</p> <p>面談により適切な目標を定めさせ、達成に向けて努力を継続させる。</p> <p>③「自立支援事業」・「就業体験事業」を活用し、面接指導・コミュニケーション訓練・就業体験等の支援を通じ、やりがい・生きがいを見出し適切な職業観を育成する。</p>	<p>①②③授業など学校生活に取り組む姿勢の変化</p> <p>②③学校評価アンケート(進路)での満足度</p> <p>②③進路希望調査での未定の減少</p>	<p>【基本的生活習慣の確立を進路意識の向上につなげる】</p> <p>①基礎力診断テストと分析会を通じ、教員の共通理解を図り、個々の指導を工夫したが、生徒の取組状況はまだ改善が必要である。</p> <p>②進路指導についての肯定的な回答は生徒79.9%、保護者89.0%である。</p> <p>③3学年当初の未定という回答は5.6%だった。1年次の「自立支援事業」「就業体験事業」が効果が見られるが、進路意識の向上は継続的な指導が必要である。</p>	A	<p>基礎力診断テストについては、生徒の取組意識を改善するため、テストの種類・回数・時期などの検討をして、学力の向上のための効果的なツールとなるよう工夫する必要がある。</p> <p>生徒への指導に加え、保護者へ向けての進路情報の発信に取り組む。</p>
		早い段階での希望進路決定者の増加させる。	<p>①段階的な進路に係る計画を策定し、各学年ごとで実行する。</p> <p>②日常的な学習指導、生活指導により、学力・生活規範を身に付けさせる。資格取得を奨励し、参加への呼びかけや補習を実施する。論文や面接練習などに、すべての教員が携わり、組織的・体系的な指導を実施する。</p>	<p>①②進路決定結果の内容</p> <p>①②卒業時の進路未定者の減少</p>	<p>【進路行事を計画的に実施、生徒の進路意識の早期向上が課題】</p> <p>①1学年で就業体験・職業別説明会により職業観を育成、2学年で分野別説明会・分野別見学会による進路希望の明確化を図った。3学年で分野別説明会、夏季休業中に進路特別指導・面接指導を実施。進路決定者は121名、未定者は41名である。(1月末現在)</p>	B	<p>大学入試改革に伴い、eポートフォリオ、調査書への対応の中で、小論文指導・面接指導などの実施方法を工夫し改善する。</p>
4	<p>【現状】</p> <ul style="list-style-type: none"> 部活動加入率が低く、活動が停滞気味である。 部活動に対して消極的な考えを持っている生徒、或いは時間的に活動が制限される生徒が一定数に在籍している。 地域との連携は進んでいるが、活動が一部の生徒に偏っている。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> 生徒の部活動に対する意欲と向上心の醸成が必要である。 部活動と行事の活性化を通じて生徒がものごとを協力して達成する経験を通じて、総合的な人間力を育成することが必要である。 一層、地域との連携をすすめて、開かれた学校づくりの推進が必要である。 	部活動を活性化させる。	<p>①部活動への参加を奨励し、日常的な部活動を活性化させる。</p> <p>部活動の様子をホームページ等で紹介し、学校説明会や式典等の行事において学校の代表として活躍する気概を養う。</p> <p>交通費等の補助を利用しやすくするなど、工夫をすることにより部活動に参加することができる環境を整備する。</p>	<p>①部活動加入率の向上</p> <p>①「部活動」に関するホームページの更新回数の増加</p>	<p>【各部活動が活躍、しかし参加人数など活性化は課題】</p> <p>①大会や行事で成果を得た部活動もあり、活動内容の充実は進んでいる。一方加入率には大きな変化はないが実質的な参加人数は減少している。中学生への部活動体験を2回に増やし、参加者が増加した。ホームページの活動紹介・活動報告等を昨年同様実施し、生徒募集からの部活動の活性化に努めた。また、交通費補助等の扱いの見直し、活動を支援した。</p>	B	<p>生徒会を中心に新入生への働きかけを検討している。部活動に意欲を持つ生徒の入学時の確保と顧問が部活動の指導にあたる時間の確保が課題である。</p>
		地域に貢献する意識と国際的な多様性に対する理解を向上させる。	<p>①和光市ボランティアセンター、社会福祉協議会等主催のボランティア活動に参加し、地域との交流を深める。</p> <p>近隣の小中学校や公共施設等、地域との連携を強化する。</p> <p>生徒会や一部の部活動の生徒だけではなく、より多くの生徒がボランティアに参加できるように指導する。</p> <p>②和光市と連携し、国際理解教育の機会を生徒に提供する。</p> <p>言語資格試験の取得を奨励し国際理解を進める基盤をつくる。</p>	<p>①ボランティアへの参加者数の増加</p> <p>①連携、協力した外部機関の数の増加</p> <p>②国際理解教育プログラムへの参加者数の増加</p> <p>②言語資格試験等の受験者数の増加</p>	<p>【ボランティアへの積極的な参加がすすみ地域へ貢献】</p> <p>①「午玉山の会」と生物部、生徒会に地学部が加わり、午玉山の清掃活動を今年度も行った(各約40名)。和光特別支援学校との交流会、鍋グランプリ(38名)、和光市ロードレース(23名)、その他、市民まつり・市民体育祭、着飾散歩など地域行事、保育園や図書館等でのボランティアに参加した。のべ参加者数は増加傾向だが、まだ、偏りがある。外部機関9団体以上と連携。</p> <p>②ロングビュー市訪問を迎え、授業見学や書道体験などにより交流会を実施。生徒会・渡米経験者のほか書道部などが参加。</p> <p>②英検21名、漢検39名受験。その他情報に関する検定を多数受験。受験者に対して補習等の指導を実施した。</p>	B	<p>ボランティア活動に多くの生徒が参加している。徐々に裾野が広がってきた。一層地域や社会へ貢献する意識を全体的に広く高めることが課題である。</p> <p>来年度はロングビューへの生徒派遣の年になる。文化交流・国際交流への意欲を高め、講習や研修を行う予定である。参加生徒だけでなく学校として国際理解教育をすすめる。</p> <p>英検・漢検は、まだ、受験者が少ない現状がある。進路意識との関連も含め、受験者を増やし、補習を継続実施して合格者を増加させたい。</p>

学校関係者評価	
実施日 令和2年2月7日(金)	
学校関係者からの意見・要望・評価等	
【学習指導について】	<ul style="list-style-type: none"> 授業参観月間を年2回設定しているが、参観をもっと奨励して、授業力の向上を目指していただきたい。 少人数学級編成が学力向上に効果が出ている。今年度から2年生でも少人数学級編成を導入したことは、保護者からも評価されている。今年度の重点目標に沿った成果が出ている。 中学校ではおとなしくて目立たなかった生徒が、意欲的になって生き生きとして活躍している。少人数学級編成は和光高校の特色になっているので、ぜひ継続していただきたい。 和光高校の少人数学級編成や習熟度別指導などの取組を、中学校の教職員や生徒が知らない。よい取組なので、アピールの方法を工夫して、中学校へ浸透を図れば生徒募集につながると思われる。
【生徒指導について】	<ul style="list-style-type: none"> 遅刻をしないということは自立した社会人への第一歩となるので、遅刻指導をさらに継続していただきたい。 生徒本人だけではなく、経済的な理由など、家庭環境の問題で学校生活が続かなくなる生徒が増えている。様々な問題を抱えた生徒を学校だけで解決することが難しい。和光市は地域の力があるので、地域と連携した解決策を期待する。 生徒会とPTAが連携し、学校の活性化につながる取組を実施したい。
【進路指導について】	<ul style="list-style-type: none"> 学習指導や生徒指導と連携した進路指導を行っている。社会人として必要な資質を身につけて、地域に貢献できる人材を育てることを期待する。 【就業体験について】 参加した生徒から、コミュニケーション能力やチームワークの大切さを実感したなどの感想を聞くことができた。進路意識の向上に効果上げている。 和光市周辺以外の地域や異なる業種の事業所の開拓に取り組み、より効果的な事業になることを期待する。 この活動により地域の事業所とのつながりができ、生徒の進路選択の幅が広がることを期待される。
【部活動について】	<ul style="list-style-type: none"> 【部活動について】 高校に入った部活動を頑張りたいという生徒も多い。生徒の活躍の場を広げる工夫をしていただきたい。 【地域との連携について】 「午玉山の会」との活動は参加者が増えたことだが、生徒会や特定の部活動だけでなく、他の多くの生徒が参画できれば、和光高校をさらに元気にしていける。 地域の様々なイベントに運動部を中心としてボランティアとして参加してきている。商工会でも「子ども食堂」などの活動を計画しており、高校生として活躍できる機会を連携して作っていきたい。